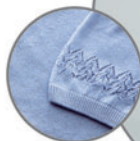


株主のみなさまへ

第50期第2四半期 営業のご報告

2010年4月1日～2010年9月30日

- 2 会社紹介
- 3 社長メッセージ
- 7 営業活動のご報告
- 8 展示会レポート
- 10 海外拠点からの手紙
- 12 連結財務諸表
- 14 会社概要
- 15 株式概要



会社紹介



Ever Onward

—— 限りなき前進



「世界初」へのチャレンジの歴史が、 「Ever Onward」の経営理念に結実しています。

当社の歩みは、現社長・島正博が「手袋編機の全自動化」という難課題に立ち向かい、1962年に当社を創業したことに始まります。3年後、ひたむきな情熱と豊かな発想は、さまざまな試行錯誤を経て世界初の全自動手袋編機の発明へと実を結びました。技術にこだわり「最高機能の製品を経済的な価格で提供する」という当社の企業スピリットは、この創業当時から一貫し、今に引き継がれています。

1970年代後半、第二次オイルショック後の不況期を脱すべく、機械技術と電子技術の融合を目指してきた結果、当社は高機能・低価格の「コンピュータ横編機」を開発。80年代には、デザインシステムをはじめソフト面の開発を強化することで先発の海外メーカーを凌駕し、創業20年にして世界のトップランナーへと躍り出ました。国内ニット産業の空洞化が進んだ90年代には、完全無縫製型の「ホールガメント®横編機」を開発。「産業革命に匹敵する」と評されるほどのインパクトを世界のニット業界にもたらしました。

そして現在も、高機能で経済性に優れた横編機やデザインシステムなど、他社の追随を許さない独創的な製品とサービスを提供し続け、先進国から新興国まで世界中のユーザーに広く受け入れられています。

これからも企画・デザインから生産、販売促進に至るまでをサポートする「トータルファッションシステム」の浸透を図り、業界の活性化に貢献するとともに、衣の文化を創造するグローバル企業として、ユーザーのために新たなチャレンジを加速していきます。

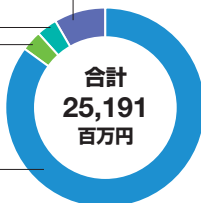
事業セグメント

その他事業 8.3%

手袋靴下編機事業 3.1%

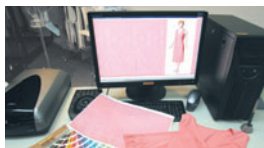
デザインシステム
関連事業 3.5%

横編機事業 85.1%



横編機事業

世界トップの技術力を誇るコンピュータ横編機を製造・販売するコア・ビジネス。コストパフォーマンスの高さでユーザーから圧倒的な支持を得るSSG®シリーズ、多彩な柄を表現できるSIG®シリーズ、着丸ごと立体的に編み上げるホールガメント横編機など、たゆみない技術開発により豊富なラインアップを提供。



デザインシステム 関連事業

ニット・アパレル業界のモノづくりを支援するデザインシステム[SDDS®-ONE]や周辺機器の製造・販売。バーチャルサンプルや3Dシミュレーションなどを駆使したワークフローの提供により、ユーザーの負担とコストを大幅に削減。異業種での導入も進んでいる。



手袋靴下編機事業

当社技術開発史の原点である手袋編機、靴下編機の製造・販売。ファインゲージ化などの高度技術を応用し、医療用分野などへ製品領域を拡大。



その他事業

当社編機、デザインシステムのメンテナンス部品の販売と修理・保守、高級カシミア糸の紡績、ニット製品の製造・販売など。

業績が回復基調にある今こそ、思い切った改革に取り組み、より強靱な企業体質への転換を図ります。



代表取締役社長 島 正博

Q 当第2四半期（2010年4月～9月）の業績について説明してください。

A 売上は順調に回復しつつあるものの、円高による為替差損が利益を押し下げました。

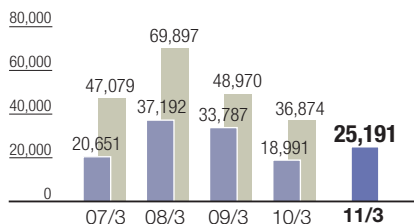
ファッション市場の消費動向は、依然としてまだ模様が続いています。最大のマーケットであるアメリカの消費は回復途上にある一方で、各国政府による景気対策の効果は確実に出ており、中国をはじめとする新興国では内需が活性化しています。

このような現況の中、横編機事業では中国、香港に加え、欧州などの主要ニット生産地域において、欧米の消費の回復を受けてニットの生産量が拡大し、設備投資が活発に行われました。欧州やロシアへのニット供給拠点となっているトルコでも、当社製品の導入が進みました。

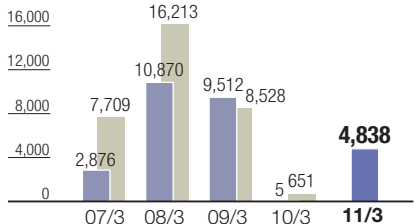
主力市場の中国、香港に関しては、売上高自体は前年同様に比べ増加していますが、当社の売上全体に占める比率は下がっており、販売地域の多様化が進んだと言えます。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は期初の予想を上回り、251億91百万円（前年同期比32.6%増）となりました。

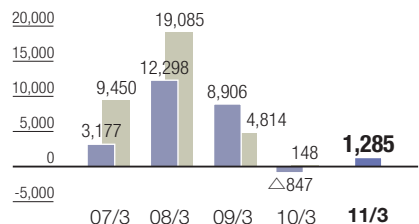
売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



経常利益・損失(△) (百万円)



■ 通期 ■ 第2四半期

社長メッセージ

また、コストダウンや経費削減の成果も着実に出たことから、営業利益は48億38百万円（前年同期は5百万円）と大幅に増加しました。しかしながら、当社は海外売上比率が高い中で外貨建ての売上が大部分を占めており、為替変動の影響を免れません。当第2四半期においても、急速に進んだ円高により大幅な為替差損が発生し、経常利益は12億85百万円（前年同期は8億47百万円の損失）となりました。さらに、投資有価証券評価損などの特別損失を計上したことにより、四半期純利益は7億49百万円（前年同期は9億30百万円の損失）となりました。

Q 当第2四半期の取り組みとその成果について説明してください。

A 当社ならではの技術開発力をアピールする新製品を開発するとともに、営業力の強化に努めました。

当社は、非常に厳しい環境下でも常に技術開発に取り組んで

きました。今期においても、世界最大級の繊維機械の展示会「ITMA ASIA + CITME 2010」で、コストダウンと効率化を両立させた新製品のNSSG®などを発表しました。展示会に参加した横編機

メーカーの中で、新製品を出展したのは当社だけであり、その技術力は地元上海の大学教授によるレポートでも高く評価されました。今回の展示会で目立ったのが、新しい取引先からの引き合いが多数あったことです。これら新規顧客に対しては、緻密な営業でフォローし、確実な受注につなげています（「ITMA ASIA + CITME 2010」での取り組みの詳細はP8～9をご覧ください）。

国内では販売組織の抜本的な改革を行い、東京、東日本、西日本の3支店体制に集約し、各支店の下に、技術支援に重点を置いたテクニカルサービスセンターを配しました。人材の効率的な配置と運用を徹底し、国内営業のてこ入れを図っています。

また、企画提案型営業の強化を図るべく、営業力の底上げにも取り組んでいます。若手社員などに対しては、当社製品の活用により顧客が得られるコスト削減や品質向上などのメリットをOJTで伝授しており、魅力ある提案ができる人材の育成に努めています。

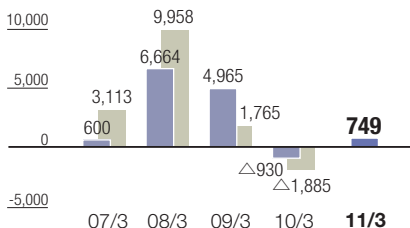
Q 中国や新興国市場の状況はどうなっていますか。

A コンピュータ横編機への転換需要、ユーザー業界の競争激化など、当社にとってのビジネスチャンスが広がっています。

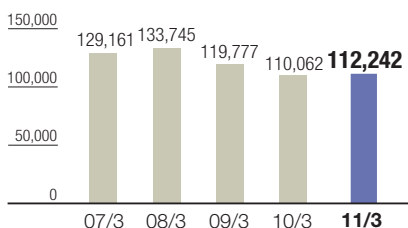
中国では経済成長につれて人件費が高騰しており、ニット生産においては手動式横編機からコンピュータ横編機への転換需要が急増しています。その中で、初期導入コストが少々割高で



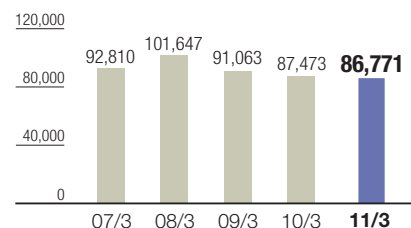
四半期（当期）純利益・損失（△）（百万円）



総資産（百万円）



純資産（百万円）



■ 通期 ■ 第2四半期

も、安定して高品質な製品作りのできる横編機を求める動きが出てきました。その背景にあるのは、中国国内においてニットメーカー間の競争が激しくなり、最終製品での差別化が生き残りのカギとなってきていることです。中国では、数台のコンピュータ横編機の導入からスタートした企業が、数年で1,000台規模にまで急成長するケースもあります。こうした有望企業を発掘していくとともに、きめ細かい技術サービスを提供するなど積極的な営業サポートを行っていくことで、さらなる拡販を図ります。

また、新興国市場では、季節が逆転する南半球の国々に注目しています。特に南米のブラジルは、まだ売上絶対額は小さいものの着実な伸びを示しており、縫製産業がないためホールガーメント[®]横編機の有望市場であると考えています。こうした南半球の市場を開拓していくことで、季節性が強い当社の生産の平準化を目指しています。さらに、チュニジア、モロッコなどアフリカの地中海沿岸地域や、クロアチア、ルーマニアなどの東欧では、当社の中古機などが多く設備されており、市場としての潜在力は充分にあります。これらの中古機を、高い生産性と品質を兼ね備えた最新の横編機に置き換えられるよう提案活動に注力していきます。

Q 今後の成長戦略をどう考えていますか。

A 人員配置の見直しで企業体質の強化を図り、トップメーカーならではの独自性をアピールします。

今後は、企業体質をより強靱な筋肉質へと鍛え上げていきます。コストダウンを徹底し、少々の為替変動ではダメージを受けない体質への転換を図ります。そのために、直間比率を見直すことで製造部門の強化を図り、生産性を高めながら販管費を削減し、より利益の出せる体制を目指します。

営業面では、かねてよりその普及に力を入れてきたホールガーメント横編機「MACH2[®]X」に今期、まとまった受注が見込まれており、アパレルのトップ企業でこの最上位機種の実価が認知されはじめている今こそチャンスだと考えています。当社ならではのハードとソフト、ノウハウを融合した総合的な企画提案力で、一層の拡販に努めます。その中で特に当社の独自性を強力にアピールできるのが、SDS[®]-ONE APEXとの連携です。この画期的なデザインシステムを活用すれば、画面上で完成品の検討や確認ができ、プレゼンテーションの精度が飛躍的に高まります。これからもクイックレスポンスに対応できるモノづくりを提案していくとともに、他社に真似のできない独創性とフルラインアップの製品体制で着実な成長を目指してまいります。



ITMA ASIA + CITME 2010



東京支店コミュニケーションスペース



オーダーニットフェア(西武池袋本店)



ホールガーメント横編機 MACH2X

社長メッセージ

Q 株主への配当について説明してください。

A 中間配当金は予定通りとし、年間配当金は期初発表通りの35円とさせていただきます。

中間配当金は、期初発表通り1株につき17円50銭といたしました。今後の為替動向など事業環境には一部不透明さは残るものの、業績そのものは順調に回復していますので、期末配当金も17円50銭とし、年間配当金は35円とさせていただきます。

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置付けています。今後も利益配分に関しては、安定配当の継続を第一に、株主価値の向上に努めてまいります。そのためには何より業績を上げることが必要であり、当社は創造力と技術力、さらに企業体質の徹底強化により競合先との差別化を図っていきます。

Q 期末に向けての施策と課題は何でしょうか。

A 期待の新機種投入と商圏の拡大により、トップメーカーとしてのポジションを固めます。

第3四半期以降は当社にとって、極めて重要な期間となります。コスト競争力の一段の強化に加え、急激に変動する中国のニット生産市場に対応した新機種SSRシリーズの生産に向けた体制を構築していきます。

SSRシリーズは、新興国でコンピュータ横編機への置き換え需要が急速に高まる中で、汎用機としての使いやすさを追求した製品であり、当社の最新技術を採用することで、生産性を向上させました。これをまずは中国、香港で、設備投資の重要なタイミングとなる旧正月明けに合わせて市場投入します。

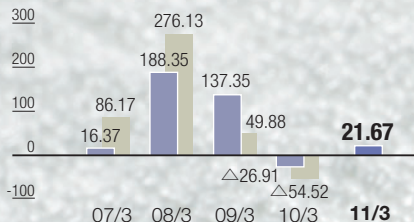
また、MACH2シリーズに関しては、欧州や香港の大手ニットメーカーへのアプローチを強化するとともに、引き合いの出始めた中国本土での拡販にも力を入れます。

さらに、商圏の拡大にも積極的に取り組みます。狙うのは、主力市場である中国、香港、欧州のそれぞれ周辺地域です。具体的には中国の内陸部やチャイナプラスワンの国々に加え、東欧や北アフリカ地域への展開を強化していきます。

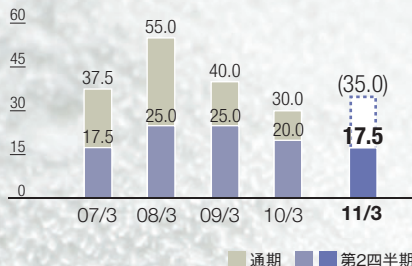
このような取り組みと同時に、製品もコストパフォーマンスに優れたSSRシリーズから独創的なホールガーメント横編機まで揃えたフルラインアップで攻勢をかけ、業界リーダーとしてのポジションを揺るぎないものにします。

こうした施策を実行することにより、2011年3月期の連結業績は、売上高480億円、営業利益80億円、経常利益35億円、当期純利益13億円を計画しています。業績見通しの前提となる為替レートは、1ドルを82円、1ユーロを110円と想定しています。

1株当たり四半期(当期)純利益・損失(△)(円)



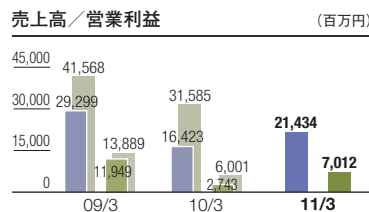
1株当たり配当金 (円)



営業活動のご報告(連結)



横編機事業



当社グループのコア・ビジネスである横編機事業においては、リーマンショック後の需要低迷を脱し、世界のニット生産地域で生産量が拡大しました。こうした事業環境を受けて、コンピュータ横編機の需要が高まり、売上高は好調な推移となりました。特に主力市場の中国では、人件費の高騰と若年労働力不足を背景に、手動式横編機からコンピュータ横編機への転換が急速に進んでおり、設備投資は回復しています。

6月下旬に開催された世界最大規模の繊維機械見本市「ITMA ASIA + CITME 2010」では、出展した横編機メーカーの中で唯一新製品を発表し、当社に対する評価が高まりました。また、コストとクオリティ、いずれのニーズにも対応できる当社製品が注目を集め、展示会では目標としていた引き合い台数を超える成果を挙げました。

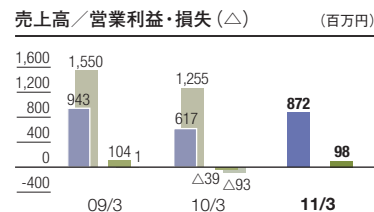
従来から営業活動に力を入れてきたアジア新興国の中では、バンダラデシュやカンボジアでの実績が上がってきています。中東のトルコや南米のブラジルでも設備投資の拡大需要を着実に取り込んでいます。さらに、今後の伸張が期待できる東欧やアフリカの地中海沿岸地域でも積極的な営業展開を行っており、市場の開拓を進めています。また、欧州での販売も順調に回復しており、中でもファッション産業の中心地であるイタリアにおいては、一部の有名ブランドで最上位機種であるホールガメント[®]横編機「MACH2[®]X」の積極的な採用が始まっています。これを契機に、他のブランドにおいても本格的な導入が進むものと期待されます。一方、国内市場では依然として顧客の業況は低迷しており、売上高の回復には至りませんでした。

これらの結果、横編機事業の売上高は214億34百万円(前年同期比30.5%増)となりました。

売上高(第2四半期累計) 営業利益(第2四半期累計)
(通期) (通期)



デザインシステム 関連事業

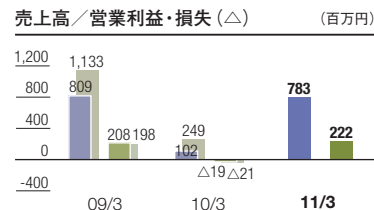


デザインシステム関連事業では、アパレルデザインワークステーション「SDS[®]-ONE」の販売がコンピュータ横編機に連動する形で好調に推移し、前年を大幅に上回る結果となりました。また布帛(織物)業界向けに、アパレルCADシステムと最新鋭の自動裁断機P-CAM[®]シリーズを組み合わせた、一貫生産システムの提案販売に注力しました。これらの結果、デザインシステム関連事業の売上高は8億72百万円(前年同期比41.3%増)となりました。



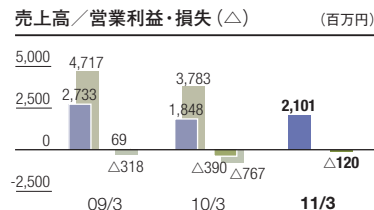
手袋靴下編機事業

手袋靴下編機事業においては、北米の大口ユーザーからの受注により、生産拠点である南アジア新興国向けの輸出が伸び、売上高は7億83百万円(前年同期比661.6%増)と大幅に回復しました。



その他事業

その他事業については、横編機の売上増に伴い、部品販売が順調に推移しました。またカシミヤ糸などの繊維原料製造事業なども堅調で、売上高は21億1百万円(前年同期比13.7%増)となりました。





今期最大の繊維機械見本市 「ITMA ASIA + CITME 2010」に出展

上海

Shanghai



多彩な製品ラインアップと技術優位性をアピール

当社は、6月22日から26日まで、上海新国際博覧センターで開催された「ITMA ASIA + CITME 2010」に出展しました。同展には初日から2万人を超える来場者が詰めかけ、中国繊維産業が新たな成長軌道に乗ったことを伺わせる盛況ぶりとなりました。出展企業は1,100社を超え、バングラデシュやベトナムなど今後の成長が期待される国々からの来場者も見られました。

今回、当社は「Solutions for Diversity (多様性に対するソリューション)」をテーマに、ベストセラー機のSSG[®]、SIG[®]シリーズに加えて、MACH2[®]Xなどの最新の横編機や、デザインシステムSDS[®]-ONE APEX、生産管理システムを出展し、お客様の幅広いニーズに対応できる総合力をアピールしました。

さらに、機種別にきめ細かく販促方針を設定し、当社製品の優位性を改めて訴求したほか、個別の要望に最適な提案で応えることに力を注ぎました。

また、会場内からオンラインで当社のニットサンプルのデータベースにアクセスし、サンプルの検索やダウンロードができるコーナーを設けました。これら一連の展示は、当社の優れた技術力や機器の信頼性、トータルな企画提案力などを、来場者が実感できる構成となっています。来場者に対して地域や事業規模、事業形態などのヒアリングも行い、そこで得た顧客データを展示会後の営業活動に活用しています。

ITMA ASIA + CITME 2010での成果

～トップブランドの総合力で高い評価を獲得～



取締役
国内営業部、経営企画部担当兼
海外営業部長
中嶋 利夫

引き合いの6割以上が新規取引先から

展示会期間中、当社ブースには2,000名を超える来場者が訪れました。今回目立ったのは、企業のトップが数多く来場したこと、引き合いの6割が新規客先だったこと、そして中国沿海地域の来場者が増えただけでなく、内陸部からも多くの方々を訪れたことです。

中国では、人件費高騰と、ファストファッションといった短期間での大量な需要に対応するため、ニット生産においてはコンピュータ横編機のニーズが急速に高まっています。そこで、コンピュータ化を考える企業の多くが、安定性や効率性、品質を重視した結果、当社を第一候補に選んだものと理解しています。新規引き合いの多くは当社ベストセラー機に集まりましたが、一方で、中国国内での高級品市場の成長を受けて、ホールガーメント®横編機の導入を検討するケースもありました。小規模から大手のニットメーカー、さらには高付加価値商品で内需を掘り起こす企業までをカバーする、当社の企画提案型メーカーとしての総合力は高く評価されています。

個別顧客に最適化した提案に注力

今回、特に好評だったのがニットのサンプルデータを提供したことで



した。多数のアクセスが得られただけでなく、各サンプルのダウンロード数から、どのようなデザインが求められているかも把握できました。

客先の規模やターゲットとしている市場、競争環境などから課題を抽出し、顧客の業績向上に直結するソリューションの提案に徹する当社の姿勢も高評価を得ました。生産性の向上によるトータルなコストメリット、オリジナル性の高い商品作りなど、顧客のニーズに応じた最適な提案ができるのは当社ならではの特長です。また、独創的な技術開発力に裏付けられた幅広い製品ラインアップや、デザイン提案などのソフト・ノウハウ面での強力なサポート力をアピールしました。

今後は、新規の引き合いが寄せられた内陸部、例えば重慶や広西チワン族自治区などへの多面的な営業展開を強化する予定で、一部ではすでに個展を開催しています。また営業スタッフを増員し、客先の状況を判断して魅力ある情報発信ができるよう研修を強化。提案力を核として積極的な営業攻勢をかけていきます。

新連載 海外拠点からの手紙

当社は世界一の横編機メーカーを目指し、早くから海外市場の開拓に注力してきました。現在では、約60カ国に子会社や代理店を擁するグローバル企業へと成長を遂げています。当社の市場は先進国から新興国まで幅広く、地域によって特性やニーズ、課題も異なります。

このような状況を踏まえ、今号から数回にわたり、海外拠点（現地法人、代理店）で活躍する従業員からの現地レポートを紹介します。

第1回はイタリア・ミラノ。イタリアは世界でも有数のファッション先進地であるとともに、1995年、ミラノで開催されたITMA展で当社が世界初のホールガーメント[®]横編機を発表するなど、当社事業の進展と深い関わりを持つ地域でもあります。

REPUBLICA ITALIANA From MILANO

第1回 From イタリア・ミラノ



PROFILE

Davide Barbieri

(SHIMA SEIKI ITALIA S.p.A.)

1997年、SHIMA SEIKI ITALIA S.p.A.の前身・

Orsi Macchine Tessili社に入社。

営業部で横編機、デザインシステムの販売を担当。



SHIMA SEIKI ITALIA S.p.A.



デザインセンター(ミラノ)



無数の聖者像で飾られたドゥオモ



高級ショップが立ち並び
モンテナポレオーネ通り



ミラノの魅力

REPUBLICA ITALIANA MILANO

ミラノは長い歴史と豊かな芸術文化に彩られた美しい街です。

街の顔ともいえる大聖堂「ドゥオモ」は、無数の尖塔と聖者像で飾られた外観が圧巻。1386年に建設が開始され、完成までに約500年が費やされました。また、歴史的な美術品として最も有名な「最後の晩餐」は、サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会にあります。20年以上にわたる修復作業でオリジナルに近い状態に復元され、一般公開されています。

しかし、何といても現代のミラノの街の魅力と言えば、ミラノコレクションに代表される先進的なファッションに尽きるでしょう。中でも、高級ブランド街のモンテナポレオーネ通りは世界的に有名なブティックなどが軒を連ねており、買い物に訪れるセレブリティと遭遇することもしばしばです。

また、サッカーは老若男女問わず大人気のスポーツです。ACミランとインテル・ミラノが激突する「ダービーマッチ」では、ミラノっ子の熱狂ぶりが最高潮に達します。

ファッションブランドの動き

2005年に実施された中国による対欧米貿易の規制緩和をきっかけに、イタリアのファッションブランドが生産拠点を中国に移す動きが活発化しました。しかし、ブランドイメージの維持や製品納期の問題などから徐々にイタリアでの生産に回帰しており、今年になってその傾向は一層強くなっています。こうした状況を受け、各ブランドが積極的に設備投資を進める中で当社横編機の引き合い、受注も好転しています。

また、当社のお客様においては、今年初めから秋冬向けの生産が順調に推移しており、今シーズンのショーウィンドーでは例年比べてニット製品が目立っています。スーパーブランド各店のショーケースにもコースゲージ(=編み目が粗い)で、大きなケーブル柄のニットが非常に多く見られます。このコースゲージ人気は来年の春夏シーズンにも続く、多くのブランドが予想しています。

イタリアビジネスの今

島精機は2001年、ミラノにデザインセンターを開設、2006年にはイタリア全域をカバーしていた販売代理店を買収して、直販体制を確

立しました。現在は、当社SHIMA SEIKI ITALIA S.p.A.のもと、2カ所の支店、6カ所の販売店があり、地域に密着した営業活動およびアフターサービスを展開しています。

島精機は、1980年代以降、イタリアに15,000台以上の横編機を出荷しており、当地での市場シェアは80%を超えます。従来から提案している「トータルファッションシステム」が高く評価されたことに加え、ホールガーメント横編機などの積極的な販売により、編機の品質、安定性をはじめとする、島精機ならではの魅力と強みをお客様に理解していただけた結果であると考えています。

また、2009年初頭からは、イタリアニット産地の各所で積極的に個展を開催しており、最新のホールガーメント横編機MACH2®シリーズも約200台を販売、「今まで以上の、さらに高品質なホールガーメントの生産が可能になった」とユーザーから高評価をいただいています。同機の導入提案は、これまで未開拓であった超高級品向けにも展開中です。また、サンプル作成のコストと時間の削減につながるデザインシステムの提案にも尽力することで、「トータルファッションシステム」のさらなる浸透を図っていきます。

NEWS

イタリア大統領から「コメンダトーレ章」を受章



7月15日、当社代表取締役社長・島正博は、駐日イタリア大使より「イタリア連帯の星勲章・コメンダトーレ章」を授与されました。同章はヨーロッパでは非常に栄誉ある勲章として知られており、イタリア共和国に対して貢献のあった外国人などに贈られています。

島はイタリアのファッション業界に向けて、ホールガーメント横編機をはじめ、常に新しいモノづくりを提案してきました。現在では、当社製品は多くのイタリアニットメーカーに導入されており、そこから生まれるファッションが両国の活発な経済交流につながっています。また、これまでにイタリア人スタッフによる数千人を集めたファッションショーを和歌山市で開催したほか、現地デザイナーとの交流によるファッション情報の提供を積極的に行うなど、イタリアファッションの普及と促進に努めてきました。今回の受章は、こうした活動を通じてイタリア文化の向上に寄与したことが評価されたものです。

当社は今後も、横編機やデザインシステムを通じてイタリアファッションの発展に貢献していくとともに、当社の技術力とイタリアの優れた感性を融合させることで、世界のニット・アパレル業界の活性化を推進していきます。



駐日イタリア大使
ヴィンチェンツォ・ベネトーネ閣下



連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期	前第2四半期	前期	科 目	当第2四半期	前第2四半期	前期
	2010年9月30日現在	2009年9月30日現在	2010年3月31日現在		2010年9月30日現在	2009年9月30日現在	2010年3月31日現在
流動資産	72,436	69,551	68,859	流動負債	18,902	13,884	16,076
現金及び預金	18,485	16,502	16,961	支払手形及び買掛金	5,609	4,784	5,804
受取手形及び売掛金	35,851	35,821	33,655	短期借入金	4,211	2,822	1,839
その他	20,708	20,200	21,113	1年内返済予定の長期借入金	1,000	—	1,000
貸倒引当金	△ 2,609	△ 2,973	△ 2,871	1年内償還予定の新株予約権付社債	1,940	—	1,941
固定資産	39,805	44,261	41,202	その他	6,141	6,276	5,491
有形固定資産	20,727	22,789	21,095	固定負債	6,568	10,385	6,513
土地	10,996	11,045	10,992	新株予約権付社債	—	2,804	—
その他	9,731	11,744	10,103	長期借入金	3,000	4,000	3,000
無形固定資産	6,151	8,524	6,897	その他	3,568	3,581	3,513
のれん	6,026	8,366	6,763	負債合計	25,470	24,269	22,589
その他	125	158	133	株主資本	99,003	100,249	98,601
投資その他の資産	12,926	12,946	13,209	資本金	14,859	14,859	14,859
投資有価証券	6,932	7,110	7,481	資本剰余金	21,724	21,724	21,724
その他	8,109	8,204	7,981	利益剰余金	68,819	70,062	68,415
貸倒引当金	△ 2,115	△ 2,368	△ 2,253	自己株式	△ 6,399	△ 6,396	△ 6,398
資産合計	112,242	113,812	110,062	評価・換算差額等	△ 12,258	△ 10,711	△ 11,133
				その他有価証券評価差額金	△ 995	△ 945	△ 1,061
				土地再評価差額金	△ 7,433	△ 7,433	△ 7,433
				為替換算調整勘定	△ 3,829	△ 2,332	△ 2,639
				新株予約権	15	—	—
				少数株主持分	11	5	5
				純資産合計	86,771	89,542	87,473
				負債純資産合計	112,242	113,812	110,062

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期	前第2四半期	前期
	2010年4月1日から 2010年9月30日まで	2009年4月1日から 2009年9月30日まで	2009年4月1日から 2010年3月31日まで
1 売上高	25,191	18,991	36,874
売上原価	13,659	11,915	22,735
売上総利益	11,532	7,076	14,139
販売費及び一般管理費	6,693	7,070	13,487
2 営業利益	4,838	5	651
営業外収益	385	587	933
営業外費用	3,938	1,441	1,436
3 経常利益・損失(△)	1,285	△ 847	148
特別利益	190	20	738
特別損失	835	143	1,928
税金等調整前 四半期(当期)純利益・損失(△)	640	△ 970	△ 1,041
法人税、住民税及び事業税	464	81	454
法人税等調整額	△ 573	△ 121	388
少数株主利益・損失(△)	0	△ 0	0
四半期(当期)純利益・損失(△)	749	△ 930	△ 1,885

POINT 1 売上高

当社のコア・ビジネスである横編織機事業で、リーマンショック後の需要低迷を脱し、世界の主要ニット生産地域において生産量が拡大したことでコンピュータ横編織機の設備投資が回復し、売上高は251億91百万円(前年同期比32.6%増)となりました。

POINT 2 営業利益

コストダウンの徹底や生産台数の増加に伴って売上総利益率が向上したことや、グループ全体における経費削減の取り組みにより販売費及び一般管理費率が低下したことで、営業利益は48億38百万円(前年同期は5百万円)と大幅に増加しました。

POINT 3 経常利益・損失(△)

急激な円高の進行により大幅な為替差損が発生し、経常利益は12億85百万円(前年同期は8億47百万円の損失)となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期	前第2四半期	前期
	2010年4月1日から 2010年9月30日まで	2009年4月1日から 2009年9月30日まで	2009年4月1日から 2010年3月31日まで
4 営業活動による キャッシュ・フロー	841	3,612	6,746
5 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 247	△ 2,277	△ 2,759
6 財務活動による キャッシュ・フロー	1,931	△ 4,008	△ 6,681
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△ 1,195	△ 585	△ 298
現金及び現金同等物の 増減額	1,329	△ 3,260	△ 2,992
現金及び現金同等物の 期首残高	16,317	19,310	19,310
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	17,647	16,050	16,317

POINT 4 営業活動によるキャッシュ・フロー

売上債権の増加等はありませんでしたが、仕入債務の増加等により8億41百万円の資金の増加となりました。

POINT 5 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得などにより2億47百万円の資金の減少となりました。

POINT 6 財務活動によるキャッシュ・フロー

短期借入金の増加などにより19億31百万円の資金の増加となりました。

(注) 詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。

会社概要

会社概要 (2010年9月30日現在)

商号 株式会社島精機製作所
 (英文表記) SHIMA SEIKI MFG., LTD.
 本社 和歌山県和歌山市坂田85番地
 創立 1962年2月4日
 資本金 148億5,980万円
 従業員数 1,199名 (連結1,720名)
 事業内容 コンピュータ横編機
 コンピュータデザインシステム
 アパレルCAD/CAMシステム
 手袋編機、靴下編機



本社・本社工場

事業所 (2010年9月30日現在)

支店、テクニカルサービスセンター (TSC)

東京支店	(東京都中央区)
東京 TSC 甲府	(山梨県中巨摩郡昭和町)
東京 TSC 太田	(群馬県太田市)
東日本支店	(新潟県五泉市)
東日本 TSC 山形	(山形県山形市)
東日本 TSC 福島	(福島県伊達市)
西日本支店	(大阪市北区)
西日本 TSC 名古屋	(名古屋市中区)
西日本 TSC 泉州	(大阪府泉大津市)
西日本 TSC 四国	(香川県東かがわ市)
海外支店 台北支店	(台北市)
工場 本社工場	(和歌山県和歌山市)

役員 (2010年9月30日現在)

地位	氏名	担当および重要な兼職
代表取締役社長	島 正博	営業本部長
専務取締役	田中 雅夫	内部監査室、物流部担当兼 管理本部長
常務取締役	島 三博	生産技術部、資材部、トータル デザインセンター担当兼生産本部長
取締役	和田 隆	システム生産技術部担当兼 製造技術部長
取締役	梅田 郁人	島精機(香港)有限公司CEO
取締役	藤田 紀	総務人事部長
取締役	有北 礼治	開発本部長
取締役	中嶋 利夫	国内営業部、経営企画部担当兼 海外営業部長
取締役	南木 隆	管理部担当兼経理財務部長
常勤監査役	片桐 正二郎	
常勤監査役	植田 光紀	
監査役	的場 悠紀	弁護士
監査役	八杉 昌利	税理士

(注) 監査役 的場悠紀、八杉昌利の両氏は、社外監査役であります。

連結子会社 (2010年9月30日現在)

株式会社シマファインプレス	(和歌山県和歌山市)
ティーエスエム工業株式会社	(和歌山県和歌山市)
株式会社海南精密	(和歌山県海南市)
東洋紡糸工業株式会社	(大阪府泉北郡忠岡町)
株式会社ツカダシマセイキ	(群馬県太田市)
株式会社マーキーズ	(和歌山県和歌山市)
SHIMA SEIKI EUROPE LTD.	(イギリス)
SHIMA SEIKI U.S.A. INC.	(アメリカ)
島精機(香港)有限公司 (SHIMA SEIKI (HONG KONG) LTD.)	(中国)
SHIMA SEIKI ITALIA S.p.A.	(イタリア)
島精榮(上海)貿易有限公司 (SHIMA SEIKI WIN WIN SHANGHAI LTD.)	(中国)
SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.	(スペイン)
東莞島精貿易有限公司 (SHIMA SEIKI WIN WIN DONGGUAN LTD.)	(中国)
SHIMA SEIKI (THAILAND) CO., LTD.	(タイ)

株式概要

株式の状況 (2010年9月30日現在)

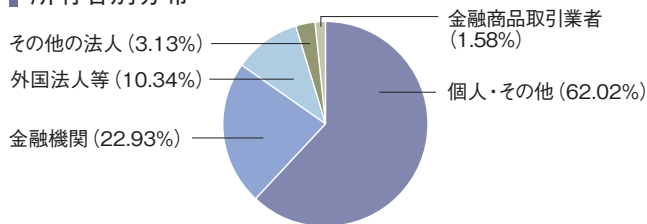
- ① 発行可能株式総数…………… 142,000,000株
- ② 発行済株式の総数…………… 36,600,000株
- ③ 株主数…………… 18,539名
- ④ 大株主

(千株未満切捨て)

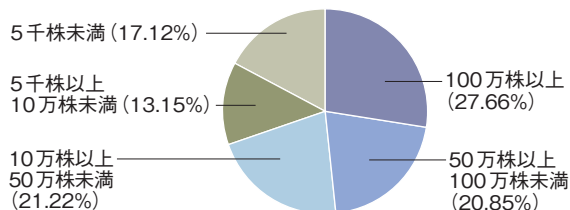
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
島 正 博	3,670	10.61
島 三 博	1,825	5.28
株式会社紀陽銀行	1,310	3.79
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	1,293	3.74
株式会社三菱東京UFJ銀行	880	2.55
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	862	2.49
和島興産株式会社	850	2.46
シマセイキ社員持株会	794	2.30
株式会社池田泉州銀行	700	2.02
後藤ひろみ	697	2.02

(注) 当社は、自己株式2,023千株を保有しておりますが、上記大株主から除外しております。
持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

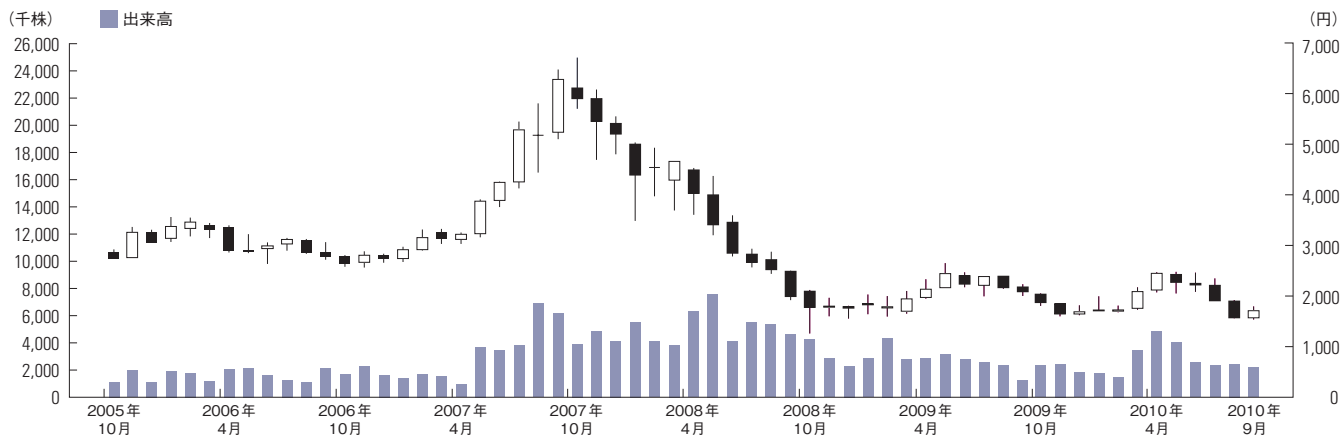
所有者別分布



所有数別分布



株価と出来高の推移 (過去5年間)



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	基準日	3月31日	
	開催日	毎年6月	
配当金受領株主確定日	期末配当金	3月31日	
	中間配当金	9月30日	
公告方法	電子公告		
	下記当社ホームページに掲載 (http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html) ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載		
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社		
	大阪証券代行部		
	〒541-8502		
	大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)		

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地
TEL (073) 471-0511 (代表)

<http://www.shimaseiki.co.jp/>

MACH2, NSSG, P-CAM, SDS, SIG, SSG,
WHOLEGARMENTおよびホールガーメントは
株式会社島精機製作所の登録商標です。

株主優待のご案内

当社では毎年3月末日と9月末日を基準日として、単元株主様に株主優待を実施しています。今9月期については、当社グループ企業が経営する南紀白浜「オーベルジュサウステラス」の優待割引券（正規料金の30%引）を進呈いたします。

発行基準	優待割引券
100株以上	4枚
1,000株以上	6枚
3,000株以上	8枚

1枚で2名様までご利用いただけます。



南紀白浜の恵みと心づくしのおもてなし くつろぎのひとつときをお過ごしいただけます

昨年リニューアルオープンした「オーベルジュサウステラス」では、南紀ならではの新鮮な魚介類や旬の食材を使用し、イタリアンとフレンチを融合した料理をご堪能いただけます。朝食には地元食材を使った和食をご用意、お部屋はいつでも贅沢感あふれる広々とした間取りです。万葉集にも登場する白浜温泉のお風呂で、心ゆくまでくつろぎのひとつときをお楽しみください。

オーベルジュサウステラス

〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町2998-10
TEL (0739) 42-4555

<http://www.southterrace.co.jp/>